

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

訪問薬剤管理指導への看護師・ケアマネへのアンケート調査

研究分担者 竹屋 泰 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻老年看護学 教授
研究協力者 梶屋絵理子 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻老年看護学 助教

研究要旨

本研究は多職種を対象とした記述式アンケートによる実態調査を行い、薬剤情報を含む患者情報提供を行う際の様式案の作成を行うための基礎資料とすることを目的とした。研究分担者は、多職種のうち、看護師、ケアマネジャー、介護士、ホームヘルパーを担当した。「看護職・介護職との連携」では、それぞれの職種の強みを述べたうえで、薬剤師にとって補完的な関係性を構築しうる存在であることを強調した。

A. 研究目的

本研究は、在宅医療における薬物治療の適正化を目指し、特にポリファーマシーによる薬物有害事象のリスクを減少させ、患者の QOL を向上させることを目的とする。初年度の研究成果から、在宅医療や介護施設における薬剤師からの情報提供は、看護師を除いて他の職種では極めて少ないことが明らかになった。提供されている情報は主に「薬」に関する管理や残薬といった物理的な情報であった。しかし、薬剤師以外の多職種からは薬物療法の有効性・安全性に関する情報を求めている結果であった。さらに半数以上が報告書作成等に何らかの困難を感じており、特に在宅医療では「時間」や「人員」の点から困難であるという回答が多かったことが判明した。これを解決するための具体的な手法として、「多職種連携推進のための在宅患者訪問薬剤管理指導ガイド」を開発した。

このガイドは、薬剤師が患者の認知機能、感覚器機能、歩行・運動機能、食事・口腔ケア、排泄、睡眠、服薬管理などを総合的に評価し、適切な薬物治療を提案できるようにすることを目標としている。さらに、薬剤師

と看護師をはじめとする他職種の関係者との情報共有を強化し、多職種連携の社会実装を促進することで、在宅医療における薬物治療の質の向上を図る。

本研究の究極的な目的は、在宅医療における多職種連携のモデルを確立し、地域医療レベルでの薬物治療の適正化を実現することにより、患者の安全と QOL の向上に寄与することである。この目的達成のために、初年度からの継続的な実態調査、様式案の作成、及び最終年度のガイド開発を行ってきた。

B. 研究方法

ガイドの開発：

高齢者総合機能評価（CGA）に準じたアプローチと薬剤起因性老年症候群を中心としたアプローチとするため、目次を検討し設定した。

・在宅等で薬剤師が多職種と連携を行うための知識

2.1 在宅医療と薬物有害事象

2.2 高齢者総合機能評価と薬学的管理の関連

・多職種連携のための訪問薬剤管理指導

3.1 多職種連携のための訪問薬剤管理指導の流れ

3.2 CGA 評価を用いたツール

・項目評価に関する解説および連携のポイント

4.1 検査値（腎機能）

4.2 睡眠

4.3 認知・感覚器機能

4.3.1 認知機能

4.3.2 視覚

4.3.3 聴覚

4.3.4 嗅覚

4.3.5 味覚

4.4 栄養および口腔の状態

4.4.1 栄養

4.4.2 嚥下機能・口腔の状態

4.5 歩行・運動機能

4.6 高齢者の排泄機能と障害

4.7 多職種との連携

4.7.1 薬剤師間の連携

4.7.2 医師との連携

4.7.3 歯科専門職との連携

4.7.4 看護職・介護職との連携

4.7.5 リハビリテーション専門職との連携

4.7.6 管理栄養士との連携

4.7.7 医療ソーシャルワーカー（MSW）との連携

4.8 電子的な情報連携

4.9 服薬管理

4.9.1 調剤方法・投薬方法

4.9.2 薬局薬剤師の残薬管理

4.9.3 服薬介助

・介護老人保健施設（老健施設）における連携

上記目次において、「4.3 認知・感覚器機能」「4.6 高齢者の排泄機能と障害」、「4.7.4

看護職・介護職との連携」の作成をおこなった。

（倫理面への配慮）

本研究は体制整備についての研究であり、ガイドの作成によるものであることから、個人が識別可能なデータは取り扱わない。

C. 研究成果

ガイドの作成において、現場スタッフが具体的にイメージをもちやすく、翌日からでも、すぐに実践できるような有効なガイドとなることを重視した。具体的には、現場で遭遇する場面を想定し、場面に応じた対応策を詳細に示している。

また「看護職・介護職との連携」では、それぞれの職種の強みを述べたうえで、薬剤師にとって補完的な関係性を構築しうる存在であることを強調した。

D. 考察

初年度に実施した実態調査でも、看護職・介護職ともに薬剤師との連携を希望しており、特に、日常的に服薬業務に関わる看護職でその割合は高かった。今回作成したガイドの普及と共に、薬剤師と看護職・介護職による相互理解を深めることで、連携の強化が期待できると共に、業務の効率化、タスクシェアの推進にも貢献できることが示唆された。

E. 結論

地域医療において、薬剤師と看護職・介護職との補完的な連携を強化することで、在宅療養者に対する、より包括的な薬物治療の提供が期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：なし

2. 実用新案登録：なし

3. その他：なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし